<table>
<tr><td>授業名</td><td colspan="3">地域課題PBL_B（データ起点の企画提案型）</td></tr>
<tr><td>英文授業名
※大学によっては英文成績通知書の記載のために必要となりますので，必ずご記入ください。</td><td colspan="3">Regional Problem-Based Learning (Course B)</td></tr>
<tr><td>開講期間</td><td colspan="3">2026年度前期</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="3">2単位</td></tr>
<tr><td>授業提供大学</td><td colspan="3">信州大学</td></tr>
<tr><td>主担当教員氏名</td><td colspan="3">縁山　大輔</td></tr>
<tr><td>副担当教員氏名</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="5">授業のねらい
※該当しないもの行は削除してください。

※授業で得られる地域活性化人材の能力と対応するように本授業の達成目標を設定してください。

※「～することができるようになる」「～することができる」という形での目標設定を推奨します。</td><td>授業で得られる
地域活性化人材の能力</td><td>⇔</td><td>本授業の達成目標</td></tr>
<tr><td>α　信州の活性化に係る知識・技能</td><td>⇔</td><td></td></tr>
<tr><td>β　信州の活性化に係る課題を発見・解決するための思考力・判断力・表現力</td><td>⇔</td><td>・地域課題を自ら設定し、調査・分析を通じてその構造的背景を理解できるようになる。
・自身の専門分野の知識・技能を活用して、課題解決の方向性を企画・提案できるようになる。</td></tr>
<tr><td>γ　信州の活性化に係る課題を主体的・対話的に発見・解決しようとする態度</td><td>⇔</td><td>・他者との対話を通じて、多様な視点を統合しながら協働的にプロジェクトを遂行できるようになる。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>授業の概要</td><td colspan="3">本授業は、地域社会が抱える具体的な課題を題材に、学生が自ら「課題設定」から「解決策の提案」までを行うPBL（Problem-Based　Learning）形式の科目である。
学生は、連携先の自治体・企業・NPO等から提供されるテーマに基づき、調査・対話・試行・提案のプロセスを実践する。教室での学習に留まらず、現場での活動を通じて多様な主体と協働し、地域活性化に資する実践的な能力（課題発見力・解決力・対話力）を習得することを目的とする。
本科目は共通の全体構造に基づき設計されているが、コースごとにアプローチ手法（モノづくり、フィールドワーク、ワークショップ等）が異なる。
本講座は、【Bコース：データ起点の企画提案型】として実施する。</td></tr>
<tr><td>授業の計画</td><td colspan="3">本授業は、学生が主体となり、自治体・企業・NPO等の「受入主体」と連携して地域課題の解決に挑む実践型プログラムである。学習プロセスは、以下の5段階で構成される。
①インプット：地域の現状や背景を深く理解し、情報を収集する。
②課題設定：現状分析に基づき、解決すべき本質的な問題を特定する。
③ワーク：課題解決に向けた具体的な提案を練り上げ、実践と検証を行う。
④発表：成果を可視化し、プレゼンテーションを行う。
⑤評価：活動プロセスと成果を振り返る（ポートフォリオの記入）。
各コース（テーマ）の特性に応じた柔軟な期間・手法を用いつつ、学内外で実施する。最終成果は全コース合同の発表会にて共有し、多様な視点からの学びを深める。
内容
この授業では、実際のマーケティング課題をテーマにデータ分析を行い、企画提案を行うPBL（問題解決学習）を採用します。テーマは「大学生が利用したくな</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">る就活支援サービスの提案」で、学生を対象にインターネット調査で収集した実データを使用します。これまでに学んだマーケティングや統計学・データ分析の実践的な応用とともに、実社会の課題解決に自信を持って取り組む力を養うことを目指しています。
本授業ではデータ分析を広くとらえ、以下のステップに沿って進めます。
1.データ活用計画
2.データ取得・クレンジング
3.データ統合
4.データ集計・アウトプット共有
5.データ分析・意思決定
それぞれのステップで実務的な知識や経験から得た教訓を紹介します。
さらに、実社会で働くイメージを持ちやすいように、チームでの演習、中間レビューの実施、実務者の仕事紹介なども取り入れます。PBLのテーマ及びデータセットは株式会社インテージテクノスフィアより提供を受け、社員が講師を担当します。実務経験（アンケート調査やデータ分析、システム開発、研究開発・事業開発など）を活かした内容を提供します。</td></tr>
<tr><td></td><td>第1回</td><td>ガイダンス（面接）</td></tr>
<tr><td></td><td>第2回</td><td>データ活用計画の策定（オンライン）</td></tr>
<tr><td></td><td>第3回</td><td>データ取得・クレンジング（面接）</td></tr>
<tr><td></td><td>第4回</td><td>データ統合（オンライン）</td></tr>
<tr><td></td><td>第5回</td><td>データ集計（面接）</td></tr>
<tr><td></td><td>第6回</td><td>データ可視化（オンライン）</td></tr>
<tr><td></td><td>第7回</td><td>データ分析（面接）</td></tr>
<tr><td></td><td>第8回</td><td>中間レビューに向けたワーク（オンライン）</td></tr>
<tr><td></td><td>第9回</td><td>中間レビュー（面接）</td></tr>
<tr><td></td><td>第10回</td><td>フレームワーク・意思決定（オンライン）</td></tr>
<tr><td></td><td>第11回</td><td>生成AIによるデータ分析トライアル（面接）</td></tr>
<tr><td></td><td>第12回</td><td>企画書作成・プレゼンテーション（オンライン）</td></tr>
<tr><td></td><td>第13回</td><td>成果発表に向けたワーク（面接）</td></tr>
<tr><td></td><td>第14回</td><td>成果発表（オンライン）</td></tr>
<tr><td></td><td>第15回</td><td>成果発表フィードバック・データ活用計画の振り返り・アンケートの回答（面接）</td></tr>
<tr><td></td><td>第16回</td><td>合同成果発表会</td></tr>
<tr><td>評価
※100点満点の点数をどのように付けるのかを記載ください。（小テストの回数や配点等）</td><td colspan="2">・チームでのプレゼンテーション50点（受講者による相互評価20点，教員による評価30点，グループワークへの消極的な参加に関してはフリーライダー減点を適用する場合があります。）
・受講者個々の成果物（データ分析の結果含むプレスリリース形式の企画書）50点
合計：100点</td></tr>
</table>

事前事後学習の内容	【事前学習】統計解析ソフトの基本的な操作の習得、自身をペルソナとしたカスタマージャーニーマップの作製 【事後学習】PBLのテーマに関する文献調査、データ取得～分析、プレゼンテーションの準備、企画書の作成
履修上の注意	・グループワークが中心となるため、出席と積極的な関与が求められる。 ・ノートPCとヘッドセットまたはイヤフォンを必ず持参してください。 ・授業内で利用するソフトウェアやサービスは，利用する直前の授業で案内します。授業当日までに利用できる環境を整えてください。 ・統計解析に用いるソフトウェアの指定はありませんが、Rで記述したサンプルコードを配布します。まったくの未経験者は，受講者向けのオンライン講座「Rで学ぶ統計基礎講座」などを利用して自習することが望ましいです。 ・プログラミングの経験は問いません。授業の中で一緒にプログラムを書くペアプログラミングを実施します。 ・統計学、ソフトウェアを用いたデータ分析、マーケティングを履修済みであることが望ましいです。 ・授業の時間外で希望者を募り、株式会社インテージテクノスフィア（長野事業所）のオフィス見学・データに関わる仕事紹介を開催します。詳細は初回の授業で説明します。 ・授業を代表していくつかのチームに、ShinXiaが主催する合同成果報告会（開催時期未定）もしくは株式会社インテージテクノスフィアが主催する、他校合同の成果報告会（例年翌3月開催）にて発表していただきます。 ・授業は松本キャンパスで行う。ShinXiaコースに登録する学生のうち、信州大学経法学部以外の学生はオンラインで参加することが可能である。
教科書	指定はありません。
参考書	江崎貴裕『分析者のためのデータ解釈学入門　データの本質をとらえる技術』ソシム